

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 第2回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 平成29年9月25日（月）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - （1）小野俊次会長、佐藤美佳副会長、角田フミコ委員、馬場章禎委員
伊藤秀司委員、佐々木義夫委員、浅野恵美委員
 - （2）事務局 相原浩子、永沼威雄、高橋ゆかり
 - （3）その他
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
議題
 - （1）報告
前回の振り返り(第1回協議会・登米市生活支援体制整備協議体視察)
第1回多職種連携ワーキング開催の報告
地域福祉力UP情報交換会振り返りと課題把握
生活支援コーディネーターの活動報告
 - （2）協議事項
協議会のしくみと役割を整理・共有～何のために、地域の宝探しをするのか～
今年度の広報の啓発・発行について
会議の公開・非公開の別
公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数
0人
- 8 会議資料
別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

協議会のしくみと役割を整理・共有～何のために、地域の宝探しをするのか～

・地域の宝探しをする理由として 地域にある力(つながり)を知るため 様々な場でいろいろな人と関わりを持ち、コミュニケーションを通じてつながるため 自分の居場所(仲間と過ごす場、生きがいを感じる場、健康づくりをする場等)を再確認するためという認識の共有を行った。

・地域の宝物として 場所(集会所、コンビニやスーパー等のイートインコーナー、個人商店など) 機会(お茶飲み会、自然発生的な集まりなど) 人材(地域リーダーやボランティア活動者、特技を持っている人、区長等) 活動や組織(サークル活動、シルバー人材センター、老人クラブ等)があることを整理した。

・地域での情報交換会等を利用して、地域の魅力や地域課題への気づきを増やし、地域の福祉力を高めていくことが必要。

今年度の広報の啓発・発行について

・地域の「支え合い活動」を地域全体へ啓発し広めていくこと、活動の当事者が活動の意義を意識づけ・再認識できるようにすること、活動にスポットを当てることで活動継続への意識向上へつなげることを目的として広報誌を発行することとした。

(2) 詳細な意見

高橋	平成 2 9 年度第 2 回生活支援体制整備協議会を開催させていただきます。初めに開会の挨拶を小野俊次会長からお願いします。
小野会長	第 1 回目の協議会では、目的の再確認や今年度の方針とテーマを決め、協議会のしくみについて話し合いました。また、登米市へ視察に行き活動してまいりました。今年度は 4 回の開催予定となっておりますが、一緒に前進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
高橋	続きまして、2 . 署名委員の選出ですが、どういった選出方法にするかみなさんにお計りしたいと思います。
一同	事務局一任。
高橋	事務局一任ということによろしいでしょうか。では、角田委員と馬場委員を推薦したいと思います。いかがでしょうか。
一同	賛成
高橋	では、お二人にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。 次に、3 . 報告に入ります。(1) 前回の振り返り(第 1 回協議会・登米市視察)について 1 ページをご覧ください。第 1 回協議会の振り返りといたしまして、決定事項等赤字で記載してあります。続きまして、登米市生活支援体制整備協議会迫圏域視察について報告いたします。平成 2 9 年 7 月 2 6 日迫老人福祉センターへ美里町生活支援体制整備協議会委員 4 名、美里町包括 1 名、美里町社協 2 名で視察へ行って参りました。登米市生活支援体制整備事業迫圏域第 1 回協議体会議へ同席させていただきました。お互いの町の情報交換も行われ、他地域の体制整備事業の進捗状況について知る機会となりました。(資料 8 ~ 10 ページ参照) 続きまして、(2) 第 1 回多職種連携ワーキング開催についてと(3) 地域福祉力 UP 情報交換会振り返りと課題把握について永沼より報告致します。
永沼	(2) 第 1 回多職種連携ワーキング開催について報告させていただきます。資料 11 ページを参照下さい。美里町社会福祉協議会で第 3 次地域福祉活動計画を今年度と来年度の 2 ヶ年をかけて策定していくことになっております。こちらの策定委員として体制整備協議会から佐々木義夫委員に出席頂いております。11 ページに体系図のイメージがあります。左側が活動計画に関するもの、右側は体制整備協議会となっております。その両方の機能を合わせ持ったものが多職種連携ワーキングとなっております。計画づくりではワーキング、体制整備では専門職部会という名前になっております。様々な職種の人に入って頂いて、地域の生活課題等について考えを進めていくというものです。体制整備協議会と連動して進

めていければと思います。12 ページを参照下さい。8月7日に第1回多職種連携ワーキングを開催しました。参加者については、13 ページを参照下さい。33名の方にお集まり頂き、位置づけの説明をした後に、講演「多職種連携がなぜ必要なのか」をテーマに情報共有と地域・仕組みづくりに向けて、宮城県サポートセンター支援事務所長鈴木守幸氏から講演頂きました。その後に、ワークショップで事例検討として、多職種連携の必要性や制度の狭間の方々の対応について、色々な立場の方からご意見を頂きながら自組織でできる事や連携したらできる事を模索する機会となりました。課題把握は様々な人が関わってこそ情報が集約され、当事者の姿が見えてくることであり、住民をはじめ多職種と連携し情報共有することの大切さと必要性を体験することができました。その意義を理解し、2回目以降は連携していくためにも、現在地域の中にある諸問題や課題等々とはどういうものかということを探っていければと思っています。この協議会と計画作りの策定委員と連動しながら進めていければと思います。14 ページに大崎タイムスに掲載されたものがのっていますので、ご覧頂ければと思います。

続きまして、(3)地域福祉力UP情報交換会振り返りと課題把握について、16 ページをご覧下さい。地域福祉力UP情報交換会は、町内16地区社協を6小学校区に区分し情報交換を行っています。日頃から住民一人ひとりが支え合い、共に福祉のまちみさとを築いていくための目標と活動の計画を、より具体的に推進していくことを目的にしています。身近な地域の中の生活福祉課題の把握・解決に向けて地域のみなさんが集まり、話し合う場としております。地域福祉力UP情報交換会の内容は、地域内の生活課題の共有、支え合いの可視化や見守り活動をどう展開していけばよいのかといったことをみんなで理解する機会となっています。高齢者の生活支援では、買い物や通院などの移動問題や雪かき、ゴミ出し等を地域の中でできないか、困っている人はどのくらいいるのかという事や子育て世代の孤立等の問題も共有しながら、最終的には解決の方向へいければと思っています。北浦と中埜エリアでは8月末に行われ、不動堂エリアは9月29日に行われる予定です。テーマは、それぞれの地区社協と協議をしてテーマを決めます。その報告が18、19ページにあります。中埜地区では、健康づくりと介護予防の推進について話し合いが行われました。一人ひとりが意識していくこと、みんなで話し合って確認していく場が必要ではないかといったことが話し合われました。北浦地区のテーマは、地域の課題を再点検ということで、行政区内で課題となっているものについて話し合いが行われました。高齢者の問題がメインでした。それらに対する解決への方策や生活支援については介護保険サ

	<p>ービスと地域にある支え合いをうまく融合させて、どんな方々も暮らしやすい地域へ向けて話し合いが進められていました。活動を進めていくための課題として、担い手について挙げられていました。このように、地区社協ごとに開催し行政区ごとに細かく話し合い解決策を協議しながら、見えるカタチで自分達の行政区を確認しながら進めていければと思っています。体制整備協議会の委員の方にも、これからの開催地区や内容についても報告させて頂きたいと思います。</p>
<p>高橋</p>	<p>ありがとうございました。これからも各地区で情報交換会を開催する予定で、ご案内いたしますのでご参加頂ければと思います。続きまして、(4)生活支援コーディネーターの活動報告に入ります。資料の21ページをご覧下さい。美里町にある地域の支え合い～お茶飲み会やサロン活動、日常のつながりから～ということで、平成29年6月から9月現在まで、14カ所の活動や集まりにお邪魔させて頂きました。その中でも印象的だった活動や集まりを3つ紹介したいと思います。まず、一つ目は大口団地親和会ほっとカフェ・リラックスです。主催は、大口団地親和会です。目的は、相互の健康確認とひきこもり予防を目的に、毎月1回開催されています。参加者の声として、毎月楽しみにしている、情報交換できるといった事が聞かれました。参加者からの地域情報としては、少子高齢化や空家が10軒ほどあるといった地域課題を教えて頂きました。所感としまして、参加者がテーブルに飾る花を持参されるなど運営に対して自分から参画する場面が見られ、みんなでつくる憩いの場として運営者と参加者の区別なく、このような会の持ち方、雰囲気づくりが気兼ねなく集える場づくりのヒントであると感じました。二つ目は、花野果市場の一品タイムです。主催は、任意なのでありません。目的は、野菜の出荷と回収後の休憩です。実施回数は毎日です。持ち寄りの漬物や試作品を食べながら、日常のおしゃべりをされていました。参加者からは、ここはストレス発散の場、いつもの顔ぶれがないと心配になる、レシピの交換や試作品の感想を聞けるといった声が聞かれました。所感としまして、集まるメンバーの中には一人暮らしの高齢者もあり、女性メンバーが試食といって惣菜等を作って持参したものを男性が感想を述べたり、持ち帰ったりする役割をしていました。農業をキーワードに自然発生的にできた場が、健康、生きがい、支え合いの場に広がっていると感じました。最後は、下二郷2の砂山ラジオ体操会です。こちらの発起人は森芳四郎区長です。第1回目という貴重な場にお邪魔させて頂きました。目的は、健康づくりと介護予防で、実施回数は火、木、土の週3回です。以前、1度ラジオ体操会を立ち上げたそうですが、カタチを決め</p>

	<p>て実施した所うまくいかなかったそうです。今回、社協のラジオ体操講習会をきっかけに再度立ち上げ、自由参加で進めていこうとされていました。参加者からは、一人ではなかなかできないけれど、みんながいるとやれる、定着していくためにも口コミで広げていかないと人が集まらないと思うといった声が聞かれました。一人のきっかけを大事にし、一人の気づきを地域へ広げる輪が地域全体の健康づくりになるのだと思いました。3カ所ともカタチは違いますが、みなさんそれぞれ想いを持って活動されている姿が印象的でした。以上です。</p>
浅野委員	<p>補足ですが、大口団地親和会は社協の小地域活動支援事業というのがあって、3年間助成金を出していました。ほっとカフェ・リラックスのできた経緯ですが、3.11の時に避難所を運営したことをきっかけに、日々顔を合わせていないと避難してきた人が誰だか分からないということがありました。防災も目的のひとつです。防災とお茶飲み会をセットにして、日々の活動がいざという時に発揮できるように意識しています。親和会という自治会ですが、このサロンを切り盛りするチームがあります。これは、やりたい人がお手伝いをされていて、お茶、コーヒー、紅茶などドリンクバー制です。普通のお茶っこ飲み会だと役員さんたちがお茶をついで下さる所を、ここではカップを選ぶ所から始まります。そこから会話が生まれるように、あえてカップは全部バラの柄を揃えたようです。参加費は100円ですが、集金というカタチではなく募金箱のような木の箱を置き、その中に参加費をいれて頂くといったスタイルです。機械が得意な方はアイパッドを持ってきてBGMを流したり、自分たちがやれることを様々な場面で発揮しています。花野果市場も仕事が生きがいになり、役割になり、社会参加になっているので、私達が知らなかった場面が多々あるのかなと思います。ヨークやウジエでもイトインコーナーがあるので、そういった所に行ってみるのもおもしろいのかなと思います。</p> <p>下二郷のラジオ体操会も生まれたばかりですが、区長さんの気づきを周りがどう支え、どう継続していくのか、社協としてもどう関わっていくか考えておりました。以上、補足でした。</p>
高橋	<p>22ページから27ページは、6～9月までに訪問させて頂いたお茶飲み会やサロンの実施状況と効果と課題の一覧ですのでご覧下さい。</p>
浅野委員	<p>コーディネーター一人が66行政区やもっと小さい所に行くのは大変なので、委員さん方が地域の情報を知っていればコーディネーターに教えたり、聞いて頂ければ、この一覧も埋められるのではないかなと思います。できれば、来年度末までこの一覧を埋められれば、地域カルテのような</p>

	<p>ものができるのではないかと思います。気づいたことがあれば、コーディネーターの方へ教えて頂ければと思います。</p>
高橋	<p>よろしく願い致します。それでは、協議事項に入りたいと思います。ここからは、進行を小野会長にお願いしたいと思います。</p>
小野会長	<p>報告で何か質問等はありませんか？では、4の協議事項に入りたいと思います。協議会のしくみと役割を整理・共有～何の為に、地域の宝探しをするのか～ということで、ご意見ありますか。</p>
高橋	<p>前回、美里の宝物を探すということで、宝物という素敵な言葉は出たのですが、どんなものが宝物なのかぼんやりとしてしまったので、明確にしていきたいと思います。</p>
伊藤委員	<p>シルバーの会員さんでもいるけど、歌のうまい人などは宝だと思います。介護施設などで披露したり、そういった場を作り特徴を生かして、ふれあえる場があればいいのかなと思います。</p>
小野会長	<p>いろんな意味で宝はいっぱいあるよね。</p>
浅野委員	<p>花野果市場のように、料理上手な人や歌がうまい人等が力を発揮できる場があるといいのかなと思いますね。</p>
佐々木委員	<p>そういった場所が必要だよ。小さくてもいいので。</p>
小野会長	<p>集まる場所は、各行政区に集会所とかあるしね。個人の家は、ほぼ使わないよね。あとは、御不動さんとか学校山とか…。</p>
佐々木委員	<p>まずは、集まる場所だよ。集まる人数は2, 3人でもいいから。花野果市場とか、コンビニのイトインコーナーとかでもいいから小さい単位のものがたくさんあれば、そこから始まるのかなと思います。そうすると、いろんな人の意識も変わると思います。そこで、できる事できない事を話し合うことで活動も広がるのではないかと思います。でも、地域によっては福祉の意識差があるのが現状だよ。そういった時に社協やシルバーからアドバイスがあると、横のつながりも強くなるのではないかと思います。歌とか踊りとかうまい人が、どこかで発表することで、それが生きがいになったり、やる気にもつながるよね。そのためには、健康でなければいけないから体操するといった発想にもつながるよね。</p>
伊藤委員	<p>不動堂のコンビニもすごいよね。コーヒーあるから、たまり場になっていて高齢者の方が5, 6人集まってお茶飲みをしているのね。南郷の花野果市場は、自然発生的な場です。いぶん前から高齢者の方が集まっているんだよね。いいなあと思っていました。</p>
角田委員	<p>花野果市場もそうだけど自分の仕事を持っている人は、それが核になっているよね。集まると情報交換の場や生きがいになり、元気でピンピンコロリとなると。でも、サラリーマンだった人の奥さんとかは、なかなか</p>

	かお茶っこ飲み会にも出て来ない人もいるね。集会所を借りて足もみマッサージ教室やカラオケ教室をする組織はあるけど、みんなが参加となると難しい。
小野会長	自然発生的な場も必要だけど、ある程度そういったカタチをつくることも必要だと思うんだよね。お茶飲み会があるから来てよと声を掛けても全員が来るわけでもないし、いろいろなカタチの場をつくることも必要だよ。自然発生的な場に参加しているのは、一部だからね。
浅野委員	例えば、区長さん達が主催する集いと、好きな人たちが集まっている集いと多様なカタチがあっていいのかなと思います。
佐藤副会長	先程のカタチにとらわれない活動の報告があったので、カタチにとらわれなくてもいいのだと思いました。小牛田の A コープでも7、8人の女性が毎日8時半頃集まって、情報交換をしているそうです。そういう所にいろんな提案をすると、いい刺激になるのかなと思いました。
角田委員	集会所を借りるためには、管理者に連絡して掃除して鍵を返すと、結構大変です。あまり気楽に使えないので、コンビニや A コープ等の方が気楽に集えるのかなと思うので、そういう場がもっとあったらいいなと思います。
浅野委員	コーディネーター研修で先生方の写真やスライドに男の人達が海沿いに座っていたり、女の人達が犬の散歩をしていたりと色々なカタチのものがたくさんある事がわかってきました。区長さん達が企画したものとそうでないものがあって網羅されて地域が成り立ってきたと思います。
小野会長	他に地域の宝はありますか？
佐々木委員	サークル活動やボランティア活動も宝だよ。
小野会長	ボランティア活動は、本当に地域の宝だよ。ありがたい。
馬場委員	普段、地域の商工業をされている方との関わりがほとんどですが、高齢で個人で何十年もお店をやっている方とか、そういった方々も宝かなと思います。
浅野委員	例えば、駅前の商店街のお店で2～3人のお茶飲み場になっている所とかないですか。
馬場委員	そういったお店もありますね。
小野会長	アメリカ屋とかあるね。でも奥だからやっているかわからない。商店街ももっと明るくなればいいのに。カフェみたいなのを作ったり。
浅野委員	南部屋の前のバス停に椅子があって、毎日おばあちゃん達がおしゃべりしているよね。
佐々木委員	一番いいのは、いつでも自由に入れて、相手をしてくれる人がいるところ。あとは、お茶かコーヒーくらいの飲み物があると集まりやすいよね。

	人に関しては、ボランティアさんとか交代でなんとかなるんじゃないかな。でも問題は場所だよな。
角田委員	顔見知りがあると安心するよね。2人が3人になってと徐々に増えていくよね。特に女性はね。椅子があるだけでも集まるよ。
小野委員	女性は集まるのは得意だよな。宝物はいっぱいあるけど、こういうところから始まるのかと思います。うちの裏にも椅子とテーブル置いているんだけど、前通った人にお茶っこ飲んでいかいんって声かけるんだ。何か新しいことを立ち上げるのは難しいから、みんなで話し合いをして改善していくことが大事だよな。
佐々木委員	地域は地域で変えていかないとね。
小野会長	いろんな話を区長会に持って行って、話してみるのもいいよね。住民を知っているのは区長だからね。他の地域の情報交換会に参加して、良い活動があれば自分の地域に持ち帰ってやってみるとか。地域の宝はあるから、活かさないといけないよね。
佐々木委員	集まって話をする場があれば、いろんな話ができるからね。
伊藤委員	農業改善センターで料理をやっている方達もいるので、そのような人に料理の教室をやってもらったり、一緒に食事しておしゃべりもいいよね。
小野会長	そうだね。でも問題なのは、集まる場所があっても来ない人達だよな。この前、息子夫婦とは一緒に住んではいるけど、日中は一人でおばあさんのところに行てきました。そのおばあさんは足が悪くて歩けないけど、「私、足が悪いけど、口は達者なの」って一緒におしゃべりしてきたんだけど、そういう人に「出てございん。迎えに行くから」って言っても「いいからいいから」って言うんだよね。そういう姿を見られたくないっていうプライドがあるから、そういう人達への対応も必要だよな。
伊藤委員	一人暮らしの人は話好きが多いよね。話したいことがあるんだよ。仕事で一人暮らしの方を訪問すると、「お茶飲まいん」って話しが始まる。人があんまり来ないから、人が恋しいのかな。しゃべる場や集う場は、やっぱり必要だよな。
角田委員	人が恋しくて喋る人と、人が恋しいんだけど人とは付き合えないという方がいますよ。だから、いくらお茶飲み会ありますよと誘っても「私はそういうのは嫌です。」と極端に人と付き合えない人もいます。そういう人は隣近所とも付き合わないんだよね。私は民生委員だから話してくれるけど、地域からは孤立している。
浅野委員	例えば、サロンだと広くいろんな方が来て楽しんでもらいたいけど、そういう訳にはいかないのがわかってきました。自由に集まっている人は地域にいっぱいあるらしい。一方では、一人暮らしでつながりを待って

	<p>いる人もいる。また一方では、人は恋しいけど広く皆さんとというよりは、気の許せる人とつながっていたいと思っている。孤立していて楽というわけではないようです。つながり方も強弱や頻度は違うけれど、誰もがつながりを求めているんだよね。滋賀県高島市の老人クラブでは集合型のサロンもやっていますが、訪問型のサロンもやっています。2～3人で訪問して、玄関先でお茶飲みするというのを活動として行っています。主催すると、たくさん来てほしいし、またやってと言ってもらいたいけれど、やれる範囲で小さなつながりを作っていくことが大事だと思っている人達がいることがすごいですよね。</p>
小野会長	<p>来てもらいたい人はいいよね。でも、来てほしくない人もいるよね。</p>
角田委員	<p>でも話してみると、その思いをいっぱい話してくれるんですよ。だから、やっぱり人恋しいんですよ。誰でも話しはしたいし、聞いてもらいたいんですよ。</p>
浅野委員	<p>宝として人や場所、機会とか出たのですが、共通するものってなんでしょうね。</p>
伊藤委員	<p>やっぱりコミュニケーションでしょ。いろんなカタチでのコミュニケーションが一番かな。</p>
高橋	<p>いろんな人がいるように、いろんな宝が必要なんですよ。</p>
伊藤委員	<p>そうだね。人とふれあうことで変わってくることもあるしね。</p>
浅野委員	<p>本当は誰かとつながりたいという気持ちがあるんだよね。</p>
浅野委員	<p>ご高齢であったとしても、やっぱりつながりやコミュニケーションがとれる地域が一番の宝なのかなと思います。</p>
佐々木委員	<p>そうですね。場所の関係で一人暮らしの人の家とかを使えば、そこが集いの場にもなるし、いいのかなと思います。</p>
浅野委員	<p>一人暮らしの方だけが集まっているお茶飲み会もありますね。地域のお茶飲みもいいけど、自分たちの共通の思いを話したいということで、集まっているようです。</p>
小野会長	<p>いろんな集まりがあっていいんだよね。それぞれを大事にして、その宝をフォローしながら、地域の情報交換会で出た意見と、この会議で出た意見をうまく合わせながら深めていきたいよね。次回は12月中旬の予定なので、それまでに委員のみなさんも地域の宝を探してください。他の地域に行ってみるのもいいかもしれないね。では、今年度の広報の啓発・発行についてという議題に移りたいと思います。</p>
高橋	<p>参考資料としまして29ページをご覧ください。このように冊子にまとめ地域の宝物を見える化する方法や発表を通して宝物を認め合う場作りなどもあるのですが、具体的なイメージや内容について話を進めていきたい</p>

	と思うのですが、いかがでしょうか。
角田委員	全体に知らせるのであれば広報誌のほうがいいのかと思います。発表会だと来る人が限られてしまうのかなと。でも広報誌も文字がいっぱいなのはダメ。
伊藤委員	そうだね。社協だよりもちょっと文字が小さいよね。シルバーでも年1回広報誌を出すけど、文字は極力少なく、写真を多くして見やすくしています。見て楽しくなるように目に訴えたほうがいいよね。そして、こじんまりと行われている活動を載せたほうがおもしろいんじゃないかな。
小野会長	そういうのは区長がよく知っていると思います。区長に教えてもらえばいいんだよ。そして、広報を通して紹介する。
角田委員	そうだね。犬の散歩をしているグループの紹介をどこかで見たけど、すごく印象に残っている。こういうのも活動としていいのだと発見でした。そして、広報とかに載れば、「あら～　　さんだっちゃ」と話題にもなるしね。
高橋	登米市は全部で12ページになっていますが、このページ数はどうでしょうか。
浅野委員	何を載せるかでページ数も変わるし、予算も関わってくるしね。カラーがいいよね。字ももっと大きくしてパラッと見やすくしたほうがいいよね。
角田委員	地区のお茶っこ飲み会は、社協だよりや地区社協だよりでも取り上げているから、まだ見つからないようなささやかな活動に光をあてるほうがいいんじゃないかな。
浅野委員	そうですね。この広報誌は、みんなで見つけた小さな活動を掲載して社協だよりとかと違う色を出すのもいいですよ。
佐々木委員	活動の内容と連絡先も記載するといいね。A4の紙に活動2つくらいがいいんじゃないかな。12ページは多いかな。もう少し少なくていいんじゃない。
浅野委員	今年度はとりあえず、私達なりの広報誌を発行してみましよう。
小野会長	そうだね。第1回目を出してみましよう。
浅野委員	配布についてですが、区長会で他の配布物と一緒に何とかお願いできないでしょうか。
小野会長	大丈夫ですよ。
浅野委員	では、広報と一緒にこちらの広報も一緒に配布して頂くということと、委員さん方も地域の宝物の取材をして頂くということですね。
浅野委員	できれば今年度中には発行したいですね。

小野会長	では、12月くらいかな。難しいことは書かないで写真とか大きくして載せたらいいのではないかな。
佐々木委員	活動内容と場所と連絡先とくらいでいいと思います。
角田委員	何か印象的な名前があるといいよね。
高橋	キャッチコピーがあると住民の人達もわかりやすいですよ。
小野会長	ちょっと今は出ないかな。各自考えて、あとは社協の方へ連絡することでもいいかな。
角田委員	美里弁のような方言もいいよね。
小野会長	そうですね。では、時間ですのでキャッチコピーはそれぞれ考えることとします。よろしいでしょうか。 では、閉会に移りたいと思います。佐藤美佳さんお願いします。
佐藤副会長	本日は大変お疲れ様でした。みなさんから貴重な意見をたくさん頂けたと思います。今日のご意見を参考にしながら、ますますこの協議会が大きな活動になれるように、みなさんもお協力お願い致します。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委 員 _____

委 員 _____